1. 件名：特定原子力施設監視・評価検討会（第111回）に係る面談
2. 日時：令和6年2月8日（木）10:00～13:00
3. 場所：原子力規制庁6階会議室
4. 出席者

原子力規制庁

原子力規制部

東京電力福島第一原子力発電所事故対策室

澁谷企画調査官、大辻管理官補佐、森審査班長、松田室長補佐、佐藤室長補佐
石井安全審査官、元嶋専門職、宮田係員

福島第一原子力規制事務所（テレビ会議システムによる出席）

小林所長

東京電力ホールディングス株式会社　福島第一廃炉推進カンパニー

本社　3名（テレビ会議システムによる出席）

福島第一原子力発電所　17名（テレビ会議システムによる出席）

5. 要旨

- 原子力規制庁は、東京電力ホールディングス株式会社（以下「東京電力」という。）から、次回（第111回）特定原子力施設監視・評価検討会（以下「検討会」という。）の議題に関し、資料に基づき主に以下について説明を受けた。
  - ✓ 増設ALPS配管洗浄作業における身体汚染事案の対策について
  - ✓ 東京電力福島第一原子力発電所の中長期リスクの低減目標マップ（以下「リスクマップ」という。）における東京電力の目指すべき姿（2033年度）と取組について
  - ✓ 建屋滞留水処理等の進捗状況について
  - ✓ 除染装置スラッジ回収装置の進捗状況について
  - ✓ 1号機燃料取り出しに向けた工事の進捗について
  - ✓ 2号機PCV内部調査・試験的取り出し作業の準備状況
  - ✓ 2号機燃料テレスコピック式試験的取り出し装置による試験的取り出し
  - ✓ 1号機PCV閉じ込め機能強化に向けた試験の結果について
  - ✓ 3号機S/C水位低下に向けた取り組み状況について
  - ✓ ALPS 処理水海洋放出の状況
- 原子力規制庁は、上記の内容を確認するとともに、以下のとおりコメントを行った。

【増設ALPS配管洗浄作業における身体汚染事案の対策について】

東京電力職員に対する、身体汚染などのリスクのある事態での対応に関する放射線防護教育の強化策を資料中に盛り込むこと。

【リスクマップにおける東京電力の目指すべき姿（2033年度）と取組について】

令和6年2月7日の第63回原子力規制委員会において提示したリスクマップの

改定素案に対する東京電力の意見を、同委員会での議論等も踏まえつつ分野別に改めて整理し、検討会において資料として提示すること。

【建屋滞留水処理等の進捗状況について】

ゼオライト土壌等の集積作業の着手が 2024 年度に遅延するものの、容器封入作業の着手は 2025 年度で変わらないとしている点について、遅延の理由及び当該スケジュールが妥当である理由を、資料上にわかるように記載すること。

【1 号機 PCV 閉じ込め機能強化に向けた試験の結果について】

今回の試験結果を踏まえた（2、3 号機含めた）給排気流量変更試験の今後の予定を、資料上にわかりやすく記載すること。

【3 号機 S/C 水位低下に向けた取り組み状況について】

現在判明している S/C 滞留ガスのパージ作業の課題、及び課題解決のために検討している作業期間短縮策の具体的内容を、リスクマップ改定素案における目標（1/3 号機 S/C 水位低下、2024 年度）との関係も踏まえつつ、資料上に整理して記載を行うこと。

- 東京電力から、原子力規制庁からのコメントについて検討の上、検討会に向けて対応が必要なものについては、適切に対応する旨回答があった。

6. 資料

- 増設 ALPS(B 系）配管洗浄作業における身体汚染事案の対策について
- 『東京電力福島第一原子力発電所の中期的リスクの低減目標マップ』における当社の目指すべき姿（2033 年度）と取り組みについて
- 建屋滞留水処理等の進捗状況について
- 除染装置スラッジ回収装置の進捗状況について
- 1 号機燃料取り出しに向けた工事の進捗について
- 2 号機 PCV 内部調査・試験的取り出し作業の準備状況
- 2 号機燃料テレスコピック式試験的取り出し装置による試験的取り出しについて
- 福島第一原子力発電所 1 号機 PCV 閉じ込め機能強化に向けた試験の結果について
- 3 号機 S/C 水位低下に向けた取り組み状況
- ALPS 処理水海洋放出の状況について